FX 戦略デイリー

2015.10.15

シニア・ストラテジスト
山本　雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

レンジ下限を試す

＜ポイント＞

◆昨日は、小売売上高など米経済指標の予想比大幅下振れに加えて、米地区連銀報告でも景気認識がやや下方修正されたことを受けて、米中長期債利回りの大幅低下と共にドルが対主要通貨だけでなく対新興国通貨でも大きく下落したのが特徴的だった。
◆ドル/円は米経済指標発表後に 119 円台前半へ軟化した後、米地区連銀報告発表後に 119 円丁度を割り込み一時 118.63 円の安値をつけた。但し円は対その他通貨では上昇していない。
◆本日は、豪 9 月雇用統計（10:30）、ノボトニー・オーストリア中銀総裁発言（16:00）、米新規失業保険申請件数、米 10 月 NY 連銀製造業景況指数および米 9 月コア CPI（いずれも 21:30）、米 10 月フィラデルフィア連銀製造業サーベイ（23:00）、ブラード・セントルイス連銀総裁発言、ダドリーNY 連銀総裁発言（いずれも 23:30）、メスター・クリーブランド連銀総裁発言（翌朝 5:30）、NZ3QCPI（翌朝 6:45）などが予定されている。
◆ドル/円は 9 月後半以降の 119-121 円のレンジをやや下割れしている中、NY とフィラデルフィアの製造業景況指数や米コア CPI が市場予想を下回るようだと、米国の年内利上げ開始期待が更に後退し、レンジ下限となる 9 月 4 日の安値である 118.61 円を下回ると、8 月 24 日の 116.18 円が視野に入り市場センチメントが円高方向に振れ易くなるリスクが高まる。
◆豪ドルは、RBA 政策金利と連動性が高い豪失業率が注目で、予想外に上昇すれば豪ドル安トレンドが強まる一方、予想外に低下すれば利下げ期待が後退し、豪ドルが下支えされそうだ。

昨日までの世界：円全面高ではなく、ドル全面安

ドル/円は、世界的な株安の中で欧州時間にかけて 119 円台後半で軟調に推移した後、米コア小売売上高（除く食品、自動車、建材、ガソリン）が前月比-0.1%と予想外のマイナスとなり過去計数も下方修正されたほか、コア PPI も前年比+0.8%と前月および市場予想を大きく下回るなど、米経済指標が軒並み予想比大幅下振れとなったことから、米中長期債利回りの急低下と共に 119 円台前半へ続落した。更に、米地区連銀報告でも景気認識が前回の「拡大が続いている」から「緩慢な拡大が続いている」へやや下方修正されたことを受けて、発表後に 119 円丁度を割り込み一時 118.63 円の安値をつけた。

ユーロ/ドルもドル/円と同様の動きとなり、欧州時間にかけて再び 1.14 ドル台乗せとなった後、米経済指標発表後に 1.1440 ドルへ、そして米地区連銀報告発表後に 9 月 18 日の高値（1.1460 ドル）を上抜けし 1.1489 ドルの高値をつけた。
ユーロ/円は、引き続き、ドル主導の相場展開の中でユーロと円が対ドルで同程度に上昇したことから方向感が出ず、136.20-60 円の狭いレンジでのもみ合いとなった。

Copyright (C) 2015 Monex, Inc. All rights reserved.

豪ドル/米ドルも、一昨日は大幅反落をみせていたが、原油価格の軟調にも拘らず米ドル安の影響を受けて再び反発しており、朝方の0.7199ドルの安値からNY時間引けにかけて0.73ドル台を回復した。なお、中国 9 月 CPI は前年比+1.6%と前月および市場予想を大きく下回ったが(PPI は前年比-5.9%で市場予想通り)、逆に人民銀による追加緩和期待も高まったとみられ、豪ドルその他金融市場の反応は殆どみられなかった。
豪ドル/円は、米ドル主導の相場展開の中で豪ドルと円が対米ドルで同程度に上昇したことから方向感が出ず、86 円台後半の狭いレンジでのもみ合いとなった。

きょうの高慢な偏見:レンジ下限を試す

今週の見通しはこちら(10 月 9 日付 FX 戦略ウィークリー)
今週の経済指標カレンダーはこちら

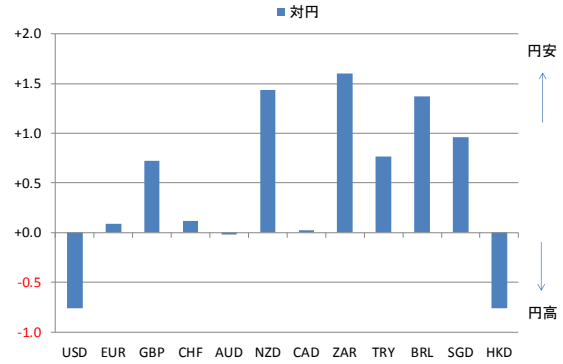
ドル/円は 9 月後半以降の 119-121 円のレンジをやや下割れしているが、8 月末以降の 118.5-122 円のレンジからは逸脱しておらず、まだ明確な方向感がない状況だ。とは言えレンジ下限に近づきつつある中、世界景気減速とこれまでのドル高の影響を受けやすい NY とフィラデルフィアの製造業景況指数が市場の改善予想(各々-8.0、-2.0)に反して悪化したり、米コア CPI が横ばいの市場予想(前年比+1.8%)を下回るようだと、米国の年内利上げ開始期待が更に後退し、レンジ下限となる 9 月 4 日の安値である 118.61 円を下回ると、8 月 24 日の 116.18 円が視野に入り市場センチメントが円高方向に振れ易くなるリスクが高まる。また、昨日は米利上げ期待が後退したにも拘らず、企業決算悪化から米株価が上昇しておらず、ドル/円の下支えが弱い点も下方リスクを高めている。

ユーロ/ドルも米経済指標を受けたドル相場動向の影響を受けやすく、上昇バイアスが強まっている。

豪ドル/米ドルは RBA 政策金利と連動性が高い豪失業率が注目で、横ばいの市場予想(6.2%)に反して上昇すれば豪ドル安圧力が強まる一方、予想外に低下すれば利下げ期待が後退し、豪ドルが更に上昇しそうだ。失業率が市場予想通りだった場合には、雇用者数変化(市場予想は+9600 人)の市場予想対比での振れに反応することになる。
また、明日早朝発表の NZ の CPI が原油安の影響や NZ 国内景気の弱さを反映して市場予想(前年比+0.3%)を下回ると、10 月 29 日早朝の RBNZ 金融政策決定で既に織り込まれている 2.50%への 25bps の追加緩和に加えて、今後も更に追加緩和するとの期待感が強まり、NZ ドルが下落しやすく、豪ドルも対米ドルでつれ安となりそうだ。

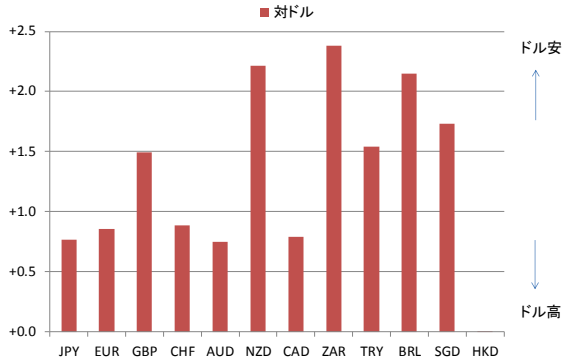
Copyright (C) 2015 Monex, Inc. All rights reserved.

主要通貨の対円相場（前日比%）



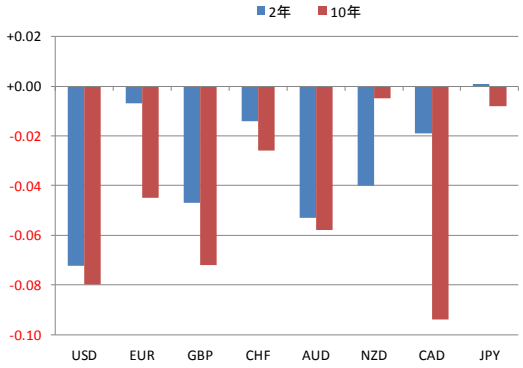
（出所）Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場（前日比%）



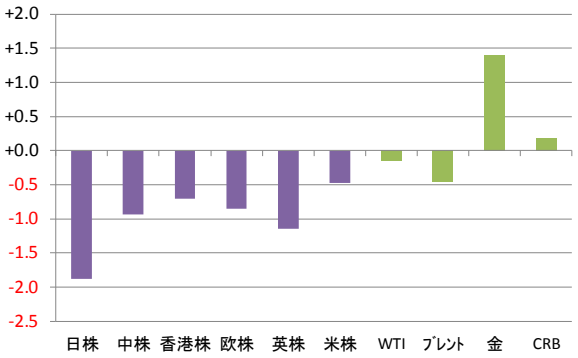
（出所）Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り（前日差%ポイント）



（出所）Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格（前日比%）



（出所）Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

Copyright (C) 2015 Monex, Inc. All rights reserved.

ご留意いただきたい事項
マネックス証券（以下当社）は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではございません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではございません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。
本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではございません。
当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではございません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。
当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金（当初元本）を上回る損失が生じるおそれがあります。
なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「リスク・手数料などの重要事項に関する説明」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社　金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第165号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人　金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

Copyright (C) 2015 Monex, Inc. All rights reserved.